キャラクター名: ローゼン・オリヴィア　（敵NPC）

プレイヤー名:

シンドローム	エンジェルハィロゥ モルフェウス	ワークス	暗殺者	カヴァー	FHエージェント
オプショナル		年齢	17	性別	女性
覚醒	感染	衝動	憎悪	初期侵食率	120 %
出自	天涯孤独	経験	仲間の死	邂逅	ヴェアヴォルフ

	基本値	ワークス	ボーナス	成長	他修正	能力値
肉体	1	0	0			1
感覚	5	1	0			6
精神	1	0	0			1
社会	1	0	0			1

HP	113
行動値	13
(非装備時)	13
戦闘移動	18
全力移動	36

肉体			感覚			精神			社会		
技能	SL	修正	技能	SL	修正	技能	SL	修正	技能	SL	修正
白兵	1		射撃	1		ＲＣ			交渉		
回避			知覚			意志			調達		
運転：	2		芸術：			知識：	2		情報：裏社会	1	
運転：			芸術：			知識：			情報：		
運転：			芸術：			知識：			情報：		
運転：			芸術：			知識：			情報：		
運転：			芸術：			知識：			情報：		

武器・コンボ	能力	命中値	G値	攻撃力	射程	メモ
ライフル	射撃	6r+1	-	LV+4		ハンドレットガンズで作成。ヴェアヴォルフのライフルを模している。
		0				
		0				
『銀狼』	射撃	17r+1		6		1.6.7

防具	価格	装甲	回避	行動	メモ

合計装甲：	0	合計回避：	0

所持品	
コネ：情報屋	
コネ：傭兵	

ロイス				
対象	感情(pos)	感情(neg)	タイタス	消費
Dロイス［光使い（ライトブリンガー）］	P	N		
ヴェアヴォルフ	P 慕情	N 悲痛		
ヴェアヴォルフを殺した者たち	P 復讐	N 憎悪		
Eロイス ［怨念の一打］	P	N		
	P	N		
	P	N		
	P	N		

最大財産P:	2	残り財産P：	0

スキル名	SL	コスト	タイミング	射程	対象	判定	制限	メモ
ワーディング	★	-	オート	視界	シーン	自動	-	
効果：	非オーヴァードのエキストラ化							
リザレクト	0	1d10	気絶時	-	自身	自動	↓100	
効果：	コスト分のHPで復活							
コンセントレイト：エンジェルハイロゥ	2	2	メジャー	-	-	-	-	
効果：	C値-LV（下限値7）							
ハンドレットガンズ	1	3	マイナー	至近	自身	自動	-	
効果：	射撃武器作成							
レーザーファン	1	3	メジャー	-	範囲（選択）	対決	-	
効果：	範囲（選択）に変更。同エンゲージ不可。シナリオLV回。							
光芒の疾走	1	1	マイナー	至近	自身	自動	-	
効果：	戦闘移動する。離脱可シーンLV回							
ペネトレイト	1	3	メジャー	武器	-	対決	-	
効果：	装甲値無視。ダイス-1個							
天からの眼	2	2	メジャー	-	-	対決	-	
効果：	ダイス+LV							
光の指先	2	2	メジャー	-	-	-	Dロイス	
効果：	ダイス+［LV+2］							
マスヴィジョン	3	4	メジャー	-	-	対決	100↑	
効果：	攻撃力+ＬＶ×5　シナリオ３回							
光の守護	1	4ｄ10	オート	至近	-	自動	120	
効果：	HPダメージを0にする							
ファイナルフラッシュ	3	20	メジャー	-	-	対決	120	
効果：	相手のリアクションC値+1　攻撃力+20　シーン１回							
生命増強	3		常時					
効果：	HP+LV*30							
	★							
効果：								
効果：								

ヴェアヴォルフの忘れ形見。
アノフィールズによるオーヴァード化実験に成功した１５人の内の１人。
ヴェアヴォルフを１５人の中で最も慕っていた。
ヴェアヴォルフを殺したオーヴァードを探し、復讐することを誓っている。
エンジェルハイロゥとモルフェウスのクロスブリード、ヴェアヴォルフのものに似たライフルを作成し、そこから銀色の光の弾丸を射撃することで戦闘を行う。
コードネームは閃光のように素早く立ち回り、銃から銀の光を放つ様と、ヴェアヴォルフの教え子であること、切り札の様子から名付けられた。
切り札の高速移動による残像との一斉射撃の際は、光の揺れ具合によりまるで残像が銀色の狼の群れに見え、
射撃の様はまるで銀狼の群れが一斉に襲い掛かってくるように見える。

日本人ではない。西洋系の顔立ち。国籍は分からない。
物心ついたときから、日本の裏路地で1人で生きていた。両親の顔も名前も知らない。
そんなあるとき、ヴェアヴォルフに、アノフィールズの「治らずの病」を利用したオーヴァード化計画の実験体として連れていかれる。
実験は成功し、彼女はオーヴァードとして目覚めた。
彼女はどこにも行き場がなかったため、FHへの勧誘もすぐに受け入れた。
ヴェアヴォルフは彼女の能力が自身に似ていることを理由に直接メンターとして指導し、能力の使い方、そして生き方を教えた。
（・・・・・もっとも、彼女の中に香里の面影を見たからかもしれないが。）
ヴェアヴォルフは、彼女に名前を与え、弟子として指導を開始する。

彼女にとってこの指導期間は、初めて誰かに教えられ、人を頼ることができた期間だった。
ぶっきらぼうながらも自分を気遣い、厳しいながらもきちんと指導をしてくれるヴェアヴォルフに対し、
父親に対するような慕情と、愛情を覚えた。